

2016年度 学生の職業意識に関するアンケート調査結果

2018年5月
 京都光華女子大学・短期大学部
 女性キャリア開発研究センター

日本の女性の年齢階級別にみた労働力率は、出産・子育て期を底にしたM字型から、欧米先進国の台形型に近づいてきています。職業をもつことに対する女性の意識も、「子どもができてもずっと仕事を続ける」という就業継続型が半数を超えるようになりました。しかしその一方で、女子学生が理想とするライフコースは、依然として母親世代をロールモデルとした出産退職・再就職型ではないかと言われています。では、本学の場合はどうでしょうか。

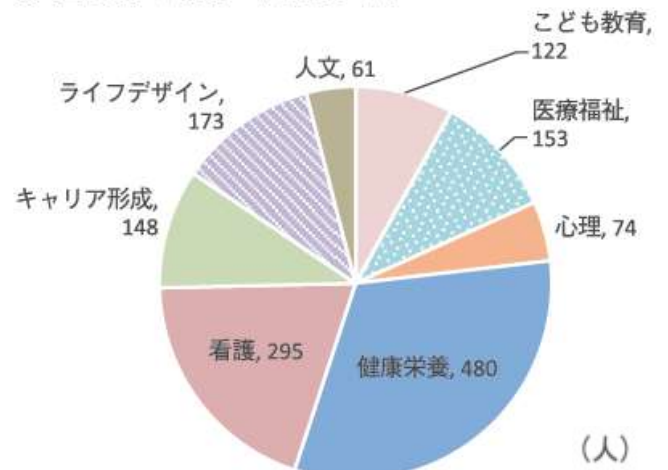
女性キャリア開発研究センターでは、女性の就業継続支援システムの構築に取り組むにあたり、2016年度に在学生の職業意識調査を行いました。質問項目は、「女性が職業をもつことについて」、「将来の職業を決めているか」、「性役割分業意識」、「男女共同参画に関する用語の認知度」などです。以下に、集計結果の一部を紹介します。

・調査対象 大学・短大生(休学者を除く1,792名) 回収数 1,506 回収率 84.0%
 ・調査期間 2016年12月～2017年1月

① 回答者の割合 (学年)

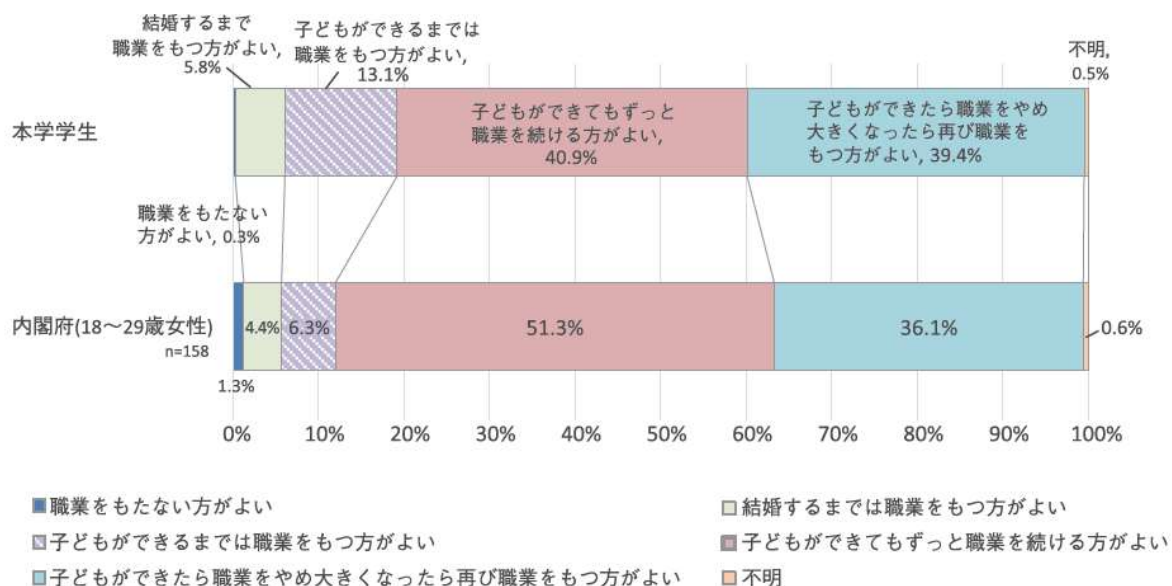
	(人)	(%)
1年(2016年入学)	494	32.80
2年(2015年入学)	388	25.76
3年(2014年入学)	337	22.38
4年(2013年入学)	287	19.06
計	1,506	100.00

② 回答者の割合 (所属学科)



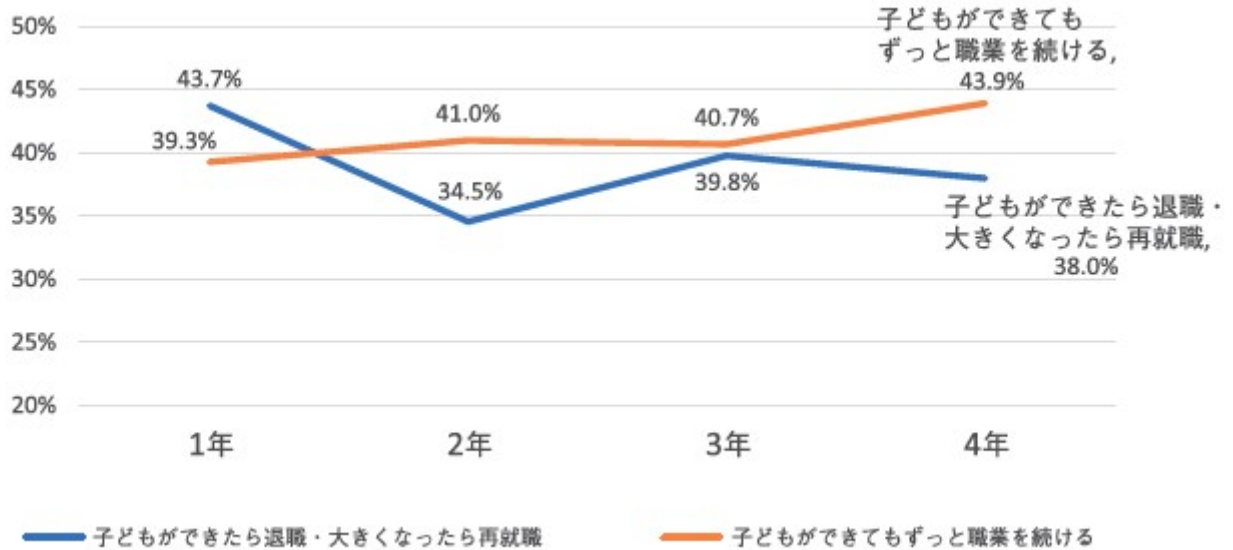
③ 女性が職業をもつことについての考え方

女性が職業をもつことについて本学の学生は、内閣府の意識調査に比べ、「就業継続型(子どもができてもずっと職業を続ける方がよい)」の割合が1割ほど少なくなっています。



④ 女性が職業をもつことについての考え方（学年別）

一方、学年別にみると、「就業継続型」は1年生より4年生の方が若干多くなることがわかりました。学年が上がると、より現実的なライフコースをイメージすることが可能になるのかもしれませんが。



⑤ 卒業後も大学にサポートしてほしい学生の割合（学科・専攻別）

就業継続を支援するために大学は何をすればよいのでしょうか。⑤は、専門分野別にみた卒業後の支援希望の割合です。この結果を学部・学科にフィードバックし検討を依頼したところ、卒業後も支援ができるような関係づくりや、既卒者対象の国家試験対策・リカレント教育の必要性などの意見が出されました。支援システムの構築に向けて引き続き調査を行っていきます。

